

審査の結果の要旨

氏名 韓 炫精

従来の戦前期の初等学校教科書研究は、植民地教育史と、内地を対象にした日本教育史とに分断して進められてきた。植民地教育史研究については、在地の文化の収奪・搾取と日本文化の強制という観点から教科書が分析される傾向にあり、内地における教育史研究では、特に歴史教科書を中心として皇国史観の展開を跡づける手がかりとして教科書を分析する傾向があった。このような先行研究の状況に対して、本研究は、1890年以降の日本が「大日本帝国」という国号に見られるように「帝国」として存在していたことに注目し、帝国の一体性と均質性を創出するメディアとして歴史教科書と地理教科書を分析した。そのことによって、「大日本帝国」の学校教育システムを通して、子どもたちが「帝国」についていかなる歴史認識・地理認識を内面化させられようとしていたのかを、植民地の存在する地政学的な位置に注目しつつ明らかにしようとしたものである。

本論文は、序章、六章からなる本論、終章、さらには補論を含む全九章から構成されている。序章では戦前期に発行された教科書の研究状況を整理した上で、「帝国」形成に資するメディアとしての教科書を、特に「図像」に注目して明らかにすることにより、教育内容の文章のみを対象とする中で見落とされてきた、視覚イメージの政治性を明らかにすることを本論文の課題として提示した。続く本論部分は、第一部地理編、第二部歴史編の二部構成をとっている。第一部地理編では、第一章において、地理教科書に掲載された地図を手がかりとして、領土の境界や空間を科学的に分割し統合する認識がどのように形成されようとしていたかを検討した。第二章では、地理教科書の写真を分析し、帝国空間の見方を統合するための視覚的技法を分析している。第三章では、統計図表をとりあげて、帝国空間に対する内地と植民地との認識の差を比較した。続く第二部歴史編では、内地と植民地で発行された歴史教科書の図像を取り上げることを通して、帝国の時間的永久性や共通記憶がどのように認識可能なものとされていたのかを検討している。第四章では、歴史的起源の場所がどのように図像化されていたか、さらには天皇の系統図や肖像の表現手法などに注目して歴史教科書を分析した。第五章では、国家儀礼などがどのように図像化されていたのかを権力者の身体描写などに注目しながら検討し、帝国の共通記憶がどのようにイメージとして共有されようとしていたのかを分析した。第六章では、歴史教科書における戦争図像を対象とし、記録の時代や地域に応じて、同じ戦争場面がどのように多様に描かれていたのかを分析し、在地の記憶をどのように帝国の共通記憶へと統合しようとしていたかを明らかにした。終章では、帝国イメージの同質性と、それぞれの在地の歴史的地理的感覚との間の亀裂に注目して本研究で明らかになったことを整理した。また補論においては、朝鮮の修身教科書を取り上げて、共通規範がいかに図像化されていたかを試論的に論じている。

本研究は、戦前期の教科書研究史において、「帝国」としての歴史的記憶・地理的感覚の共通性があることを発行地毎の教科書図像の多様性を踏まえて明らかにしようとした、「大日本帝国」を分析単位とした初めての教科書研究であると共に、近年の図像論の展開に刺戟を受けて教科書の「図像」を検討した方法論的新しさにおいて意義が認められる。

よって、本論文は、博士（教育学）の学位を授与するに相応しいものと判断された。